

# ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局：大代地区公民館

☎ 364-8442

## 大代駐在所に赴任して

大代の皆さん初めまして、今度駐在所にまいりました加藤哲三と申します。四月までおりました阿部勝治さんの後任です。

簡単に自己紹介させていただきますと、昭和四七年に警察官になり、以後仙台北署、仙台南署、大和署、仙台南署、石巻署を経て、平成七年から塩釜署で勤務しており、今年の四月から大代駐在所という歴史です。

今までの職種は、交番勤務から始まり、生活安全課特別法係、警務課留置管理係等で、駐在所勤務は今回がはじめてです。

何かと不手際があるかと思いますが、『新米駐在』に免じ、御容赦いただきようお願いしておきたいと思います。

家族は妻（五一歳）、長男（二十三歳）、長女（二〇歳）、次男（一七歳）の五人家庭ですが、息子達とは、野球やサッカーの共通話題でかろうじて断絶は免れているものの、長女には、中学生の頃から、いくらラブコールを送つても無視され続けております。

そんな「新米駐在」ですが、大代にまいりまして、気付いたというか驚いたことを書かせていただきます。

大代地区は、多賀城市の北東部について、歴史のある街であり、また、仙台市のベッドタウンとして、目覚ましく発展している活気あふれる地区、つまり、渴いた都会人意識の街という予

あいさつは心のふれあい　あいさつしましよう

備知識をもつて赴任してきたのです。

ところが大代には、都会的なものばかりでなく、私が生まれ育った仙南の片田舎の雰囲気も感ずることができたのです。私は今まで、都会型の地域にばかり勤務していただせいかもしれません。最初は驚いたのです：その牧歌的なウエット性に。しかし実はどうか、本当のところホットしたのです。

そして私の本性というか、根のところでマッチした部分を残している。このような地域で勤務できることを感謝しようという気持ちになつたのです。

大代にお世話をなつて三ヶ月、私の第一印象は、このとおり大変嬉しいものでした。最後に皆さんに一つだけお願いをして、拙い文を閉じたいと思います。

私共の勤務の一つに「家庭訪問」という仕事があつて、地区の方々の一戸一戸を訪問させていただいております。

現在大代一丁目を訪問させてもらつていますが『留守なのに、玄関は開け放し、廊下の戸も開け放し、犬がいても、昼寝していて私が訪問しても知らんぶり。』という感じのお宅がかなりあります。

我が家も友にもなれぬ少年が

世にあふれをり移りゆく世に

秩序もて小花が包む紫陽花の

鞠は美くし愛秘むる」と

のぞく小倉紀美子

梅雨の季のアヤメ祭の野点席

道具合せつつ晴るるを願う

跡辺文江

家族にも友にもなれぬ少年が

世にあふれをり移りゆく世に

道具合せつつ晴るるを願う

跡辺文江

防犯協会では、家庭の防犯、子供さん

の通学、通勤における安全確保の為

に「携帯用防犯アラーム」を斡旋販売いたします。

ご用命の方は、地区防犯協会役員に申し出て下さい。

一個一・五〇〇円（定価二・五〇〇円）

地区役員

東区 伊藤一郎

南区 平山 勇、佐藤良一、橋本 浩

中区 阿部光雄

西区 佐藤聰子

もウロウロしているのです。窃盗連続発生被害地域の一つに大代地区が入っていたこともあるのです。

！どうか、長い時間留守なさる時は、必ず鍵を閉めてお出かけ下さい。！

これが私のお願ひです。

さて、とりとめもないことを申し述べましたが、是非、御判読いただきたいと思います。また、いつか機会がありましら、もう少しまとまりのあるお話をしたいと思います。

大代駐在所 加藤哲三

△ 短歌 △

本郷貞子

梅雨の季のアヤメ祭の野点席

道具合せつつ晴るるを願う

跡辺文江

秩序もて小花が包む紫陽花の

鞠は美くし愛秘むる」と

のぞく小倉紀美子

梅雨の季のアヤメ祭の野点席

道具合せつつ晴るるを願う

跡辺文江

大代防犯協会からお知らせ

防犯協会では、家庭の防犯、子供さん

の通学、通勤における安全確保の為

に「携帯用防犯アラーム」を斡旋販売いたします。

ご用命の方は、地区防犯協会役員に申し出て下さい。

一個一・五〇〇円（定価二・五〇〇円）

地区役員

東区 伊藤一郎

南区 平山 勇、佐藤良一、橋本 浩

中区 阿部光雄

西区 佐藤聰子

観測適期を迎えた流星群  
「見ようにも出会少ない流れ星」瞬時の現象に「アツ」消えてから「流れ星今見た？」秒速一〇Km閃光時間一秒、いつ、どこに出るのか予測出来ない流星に、「今度出たら教えて、お願ひがあるの」「いいわ責任はもてないが」一気の長い同志の会話、この様なタイプの流星を散在流星という、もう一つのタイプは「このへんに出ての願い事の字数は？」「おかげがほしい七文字」「ふん七個ペルセ流星群よ流星の十や二十なら責任もつわ、でもお金？私だってほしい」常連の子供は「一個に一字「ア」と発声したら無効六個で終わっても無効よ」自作の祈願規制を押しつける。

定位位置、出現数が多い、この様な流星を流星群という。

八月初旬と中旬には水瓶座、ペルセウス座、流星群が見える、星座早見盤で位置確認を要す。流星群は、彗星の関与が大きい、彗星は太陽を長楕円軌道に回る、太陽に近づくと核を包む物質が、太陽風や光の圧力に飛ばされる。塵状の物質は太陽光に反射し彗星の尾となり軌道上に放置される。

彗星軌道は地球公転軌道と二回交差する、信号機の無い交差点で地球の引力に負けた彗星の塵は地球を覆う大気と衝突し摩擦に発光し「ス」と音をだし?消える。流星(数ミリ)は交差点で起き星座は背景名。交差点に気配り安全運転で観測を。大代北 加藤涉

## 大代地区子ども会育成連合会

### からのお知らせ

大代地区的皆様には日頃より子ども会育成会の活動に対し、支援、協力を賜り有難うございます。

先月の総会において今年度の主な事業計画を次のとおり決定しました。

- 流灯花火大会協力（八月二十日）
- 敬老会協力（九月十五日）
- スポーツ大会（十月十日）
- 柏木神社例大祭協力（十月二十五日）
- たこ作り教室・たこ上げ大会（三月十四日）
- 公民館まつり協力（出店）（一月九日）

現在、青少年の非行問題が全国的に騒がれています。多賀城市も例外にもれず、深刻化しつつある現状です。

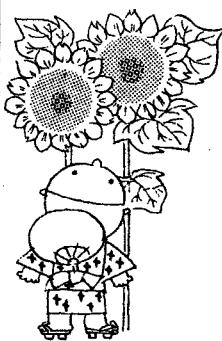
その一つに、地域住民の無関心も指摘されています。

そこで、大代地区子ども会育成会は大代地区の全世帯が会員となつて青少年の健全育成を目指し……

『あの子もこの子も社会の子』を突破口に、役員一同一生懸命頑張ります。よろしくお願い申し上げます。

大代地区子ども会育成連合会

会長 菊田 茂



## 川柳

### 華麗な転身

連載読物  
二代目下院かじしさん「ア」

不動尊一度は見たい笑い顔

佐藤秀子

割込の背中に穴を目であける

本郷ひさ

スニカーフ森林浴の息遣い

阿部うめよ

五月風年金族の腹満たし

木幡茂

子ども達も夏休みに入り、意気揚々

大代地区子ども会育成連合会

としております。これから行事について左記のとおりお知らせします。

● 各地区盆踊り大会

大代東 八月八日(土) 大和マンション前  
大代中 八月八日(土) 石ヶ森公園  
大代南 八月八日(土) 自衛隊官舎前広場

大代北 八月八日(土) 大代公園

なお、当日雨天の場合は、各地区とも翌日に開催されます。

● 灯籠(とうろう)作り教室

大代地区的伝統行事である灯籠流しが八月二十日(木)行われます。今年は子ども達が心をこめて作った『とうろう』を流しますので、是非参加して下さい。

日 時 平成十年八月六日(木)

午後二時～五時

場 所 大代地区公民館 体育室

対象者 大代地区の小学生

参加費 無料

★六十五歳定年制は、まだ定着していないので再就職をする人が多いが、華麗な転身で大成された例を紹介します。

★河北新報連続小説「異聞おくのほそ道」を書いている小説家「童門冬二」

先生は、昭和二年東京都生まれで、東京都府の部局長を勤め、退職後この道で活躍され、第四十三回芥川賞候補。

主な著書に「徳川慶喜」、「小説上杉庸山」、「小説伊藤博文」、「西郷隆盛」、「織田信長」、「小説徳川吉宗」

「小説千利休」、「小説二宮金次郎」など多数の名作があります。しかし、誰もが小説家になれるはずがなく、いつも自分の才能に気が付かれただろうか。

最近は、NHK「堂々日本史」にも登場され、史実の解説をされています。

★小説家「立松和平」先生は、某市の職員であったが、自分の才能に気付くや、逸早く転身し、大成されました。

★歌手の分野では、壁塗りから、探鉱夫から、長距離運転手からなど様々に転身し、大成されています。

★農民から関白殿下に、建築設計士から総理大臣に転身したり。

★愛読者の皆さん、人生は一度しかありません。自分の才能をご存じですか。

今こそ「才能一発見一転身」……

それを狙っていたのであります。小鳥は身をひるがえすと、あつという間に、意地悪じいさんの口の中へと滑り込んでしまったのです。いつもかかるやかな身のこなしでありました。

(以下次号)

若生一徳(大代西)

真珠色のほつそりした雲が、山間の中空を、一枚の敷物のようにゆらゆら漂っていましたが、今際の日の光をあびてさっとあかね色に染まりました。まばゆく変化したその薄雲のまなかが、ふとゆらめいたかとおもうと、一羽の小鳥があらわれ、帰り仕度の意地悪じいさんめざして飛んでくるではありませんか。生まれたてのような愛らしい小鳥、乳白色の胸毛のところに紅をさしたように緋毛がひとすじ流れいく神々しく、そして「ピピイ、ピイピイ……」と、意地悪じいさんを祝福するために遣わされた天の使いでもあるかのように、その頭上を舞いめぐりはじめたのです。

ささやきかけるような靈妙なさえずりに聞き惚れ、『まさにこれこそ、玉をころがすような鳴き声……』と嘆賞しきたらなあ。ばあさんだってどんなによろこぶかもしれないなあ……と独り言しながら、ぽかんと口を開け、見どれ聞きほれてしまいました。

それを狙っていたのであります。小鳥は身をひるがえすと、あつといふ間に、意地悪じいさんの口の中へと滑り込んでしまったのです。いつもかかるやかな身のこなしでありました。